

74

8.6-9 P.T.O/L



8.6-8.9 アピール

戦後30年を経た今日の日本に於いて、一瞬のうちに数十万の人間を一灰の物質に転化せしめた原爆が炸裂した広島・長崎の地に我々は何を目撃するのであろうか。

警官や機動隊、警備員から市職員まで動員した警備の中で、'73原爆記念式典は必死に祈り続ける1人の老婆を引きずり出して時刻どおり開始されそして滞りなく終わった。国際平和都市としてこの世の平和の"象徴"として一個の人間の重みはどこかへ追いやられて広島は存在する。

国家権力に見捨てられ民衆から見捨てられ戦前戦中に続く差別にうめく朝鮮人被爆者や沖縄の被爆者たちが1945年8月の凍結した時間の中に生きている。その人間のうめきは内に重く閉じ込められ、開放されることもなく、いつまでもきしみ続ける。"水爆実験があって東京に死の灰と言われるものが振ってきた。「ざまを見るがいい」と私は思った。死灰にまみれて、ぞくぞくと死んでみるとよい。そうすれば人間の"魂"が

現代の不安に対してどうあらねばならないかいくらか納得でき心はゆさぶられるかもしれぬ"と大田洋子に吐かせしめた。我々は今、8.6-8.9へと自己の身を運ぶことを命じその人間の歴史と向かわしめる。

戦後姿を変え経済交流の名の下に第3世界の収奪を根底とした"繁栄"と"平和"の国家幻想にすっぽりといただきこまれている日本は 明治以降アジア諸国へのあくなき侵略を行い続けその略奪物として朝鮮の人民が ような労働力としてこの日本に連れてこられそしてなぜ朝鮮人被爆者が存在するか なぜ広島と長崎に原爆が投下されねばならなかったのか。

今 ここに 我々はどんな意味に於いても確かな重みを持つ存在としての人間の中からその底深く今なおうめきを発する基底に下降し、そこを通低する日本という国家の現実(世界)に対峙しなければならない。そして一個の人間として己自身の中から起こす行為として'74年8.6-9集団撮影行動を開始する。

8.6-8.9 アポール

戦後30年を経た今日の日本に於て、一瞬のうち
に数十万人間を一灰の物質に転化せしめた
原爆が炸裂した広島・長崎の地に我々は何
を目撃するのであろうか。

警官や特動隊 警備員から市の職員まで
動員した警備の中で、17時 原爆記念式典は
必死に祈り続ける一人の老婦を写すアウトラ
時刻とあり開始され、とどろきお終った。
国際平和都市としてこの世の平和の“象徴”として
一人の人間の尊厳はどこかへ息を吐かれて広島は
存在する。

国際-救済に見捨られ民衆から見捨てられ 戦前戦中
に続く差別にゆく朝鮮人被爆者や耕種者被爆
者たちが1945年8月の悲劇した時間の内に生きている。
その人間のうめきは内に強く閉じ込められ、開放
されることもなくいつまでもさしみ続ける“被爆者
体験”が、東京に死の灰といわれるものが降ってきた。『さ
まを見るがいい』と私は思った。死灰にまみれて、よく
よく死んで見るとよい。そうすれば“人間の“魂”が

現代の存在がこれほど減らなければいかいから納得
でき、心はゆるぎから出るかもしない”と大田洋子に
吐かせしめた。我々は、今、8.6-8.9へと“己の身を
置くことを命じ、その人間の「実」と向かわしめる。^(註)

戦後 奪を奪え経る交流の名の下にオセロの
根拠とした“繁栄”と“平和”の国家幻想にすほ
りヒいたまひまひる日本は 明治以降アジア
諸国への拡大すべし略 行い続ける略奪物
としての朝鮮半島の人民が ような労働力としてこの
日本に連れこられそしてなぜ朝鮮人被爆者が
存在するか、なぜ広島と長崎に原爆が投下
されぬば”まらたかったのか。

今ここに 我々はどんな意味に於ても確かな
尊厳を持 存在として人間のなかからその底深く
今何がおうべきを洗する基底に本下降し、そこを
通越する日本という国家の現実(オセロ)に吐
けおけおけいかならた。そしてこの人間のとして自身
のなかから起す行為として1945年8.6-9年国難
劇行動を開始する。

広島ビル

「~~国~~栄ゆれど山河も破れず無し」
45年、一瞬の閃光による瓦礫化したヒロシマ人の肉肌も
オタカタ崩じどよめいた心に空はすくに陰惨な屍の街(地獄)
の悪夢の風景であった。しかし敗戦は断片的に平和憲法の
の名の下に被爆都市(博多)広島を平和都市へと逆立たせ
すり替えてしまうのである。

白く塗られたビルと、流行の華やかの中を一定の速度で
人車電車の往行するハ丁堀、それとは対照的な相生ス
ラム、今被爆の怨恨を背おった持葉アートのコンクリート
壁の中に押し入れられようとしている。スラムは以前の手創
の共同体的なものではなく、風が吹きぬがごとく残存する
のである。

また海田、草津は都市化の波の前で、北海道伊達
(火かき電車)下北(コンビナート)大塚田(チン)と変ること
ない国家の野望の下に臨海工業地帯建設と、自
然、生活の破壊をまたも繰り返かえそうとしている。

その裏で、今だに何ら解決されないまま、放置されて
福島町、屋長町部落、似島学園、そして朝鮮人は
さらに屈折を続けるこの虚飾と繁栄をほいままにお
権力による大衆による風化された被爆体験の中で被
爆者の内にあるものとは、二世にまたかかっていることとは...

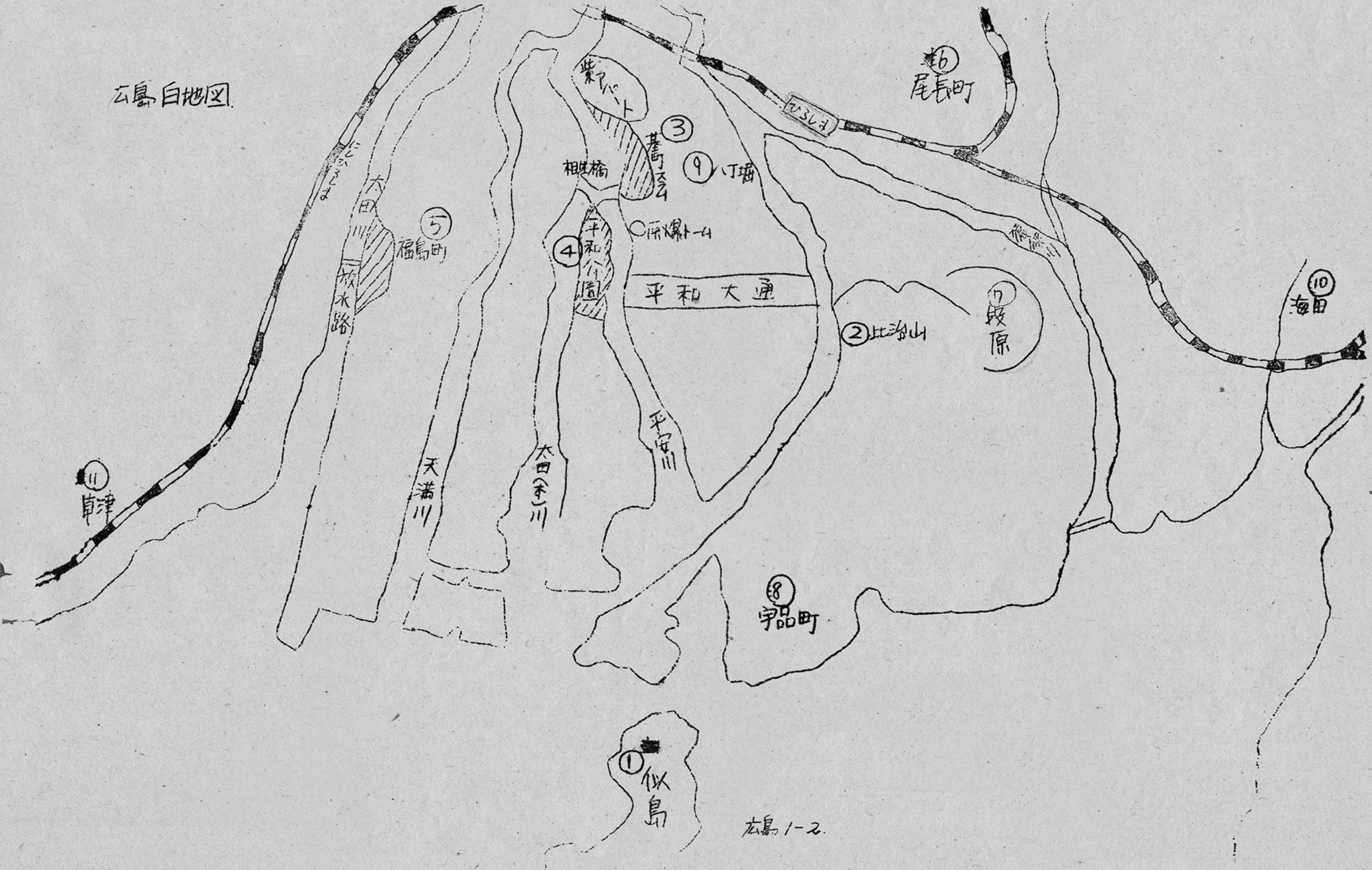
彼らは、そして我々には今年もまた国家的儀式8.6
を迎えるのである。

68年以来撮り続けてきた広島は、'71川藤
のシージャックに対する銃殺という権力の横暴
さを露呈と、その時の「声の聲」という大衆

意識の変貌と'70代の実相を見せつけられ
ることによって、混濁とした時代状況の中、執
拗に“生”の根源を問い続けた、ヒロシマ
広島 hiroujima は完結した。

'74夏我々は被爆原真ヒロシマを貫通す
ることから、戦後30年の「~~大衆が~~「~~家~~」人
間に何をなしたかを問い続けながら今
を厳然としてある「広島」の巨大な岩壁
を突き破るべく、広島撮影行動を ~~提~~
する 設定

公島白地図



広島 注 太田洋子

(草履井) 高校時代の友人M子は原爆症を悲観して、12日、自殺を謀った。M子は一人だけではなかった。私の知らないM子か、広島には数え切れない程いた。運命の日から十数年もたった。当時も、もちろん現在でもあの日の記憶を肉体と精神に刻み入った人が、広島には何万人もいるのだ。その暗い呻きを肌を感じたとき、広島は街は明るすぎほどの太陽に恵まれている温暖な土地とは思えなくなり、8月6日の荒廃をそのままにひきずって汚臭に満ちた街にみえてきた。

。錯綜する人由関係のあやも描きながら愛と人倫の行方を探索するのが、これまでの洋子の文学の課題だ。だからもし洋子が原爆を体験して、これからは「原爆を書く」ともなく、こういった傾向の作品を書き続けて、たゞ作家としては俗な意味で、たゞ名を成していったかも知れない。(中略) 原爆を書くことは同時にあの日の惨状を繰り返し、眼前の惨状によびおこすことになり、これがあまりにも残酷な地獄絵図であつただけで吐気を催させ、めまいを感じなければならなかった。洋子の言を借りれば「血へども吐き出し」で、あの

日の記憶を反すうしたから書き、不安神経症までたつてこれでも書かぬは「ならぬ」と思つて書けば今度は原爆作家とシレッとをいはれ、原爆以外のことは何を書いても「これなら」のように評される。

一方郷里の人達は原爆を利用したとして非難する。こういったあつたや二つが洋子を悩ませ、晩年の放浪に追いやる。

——書きためには思ひおこさなかつたはず、これを凝視して、私は気がかゆるかた、吐気を催し、神経的に腹部がどくどくした。——

とこれを書いた。作家である以上、書かなければ「ならぬ」と悲壮に思ひきめて書いた。

夕風の街は、序とむか、瀬川特有の用地帯、ある意味でのあり、全市の崩壊から徐々に動きを回復しはじめた広島市の探訪記がこの作品の二つである。1952年の広島に渦巻く怒りと悔しめ、あきらめと立ちあがり希望を通じて洋子の政治的傾向を語る。開戦の廃墟と化した広島市の復興は、まず都市計画の着手された。これらの建設は巨大な市費が費やされる。一方肝心の被爆者や被害者の住居復興の方が遅れた。この市政の歪み、基町住宅や相生スラムを認めた広島市の

復興の力に置き忘れられたもの、こうなると二人の心は、
洋子は注目したのを知り。当時原爆被害の大きさを白血球のことはなかりに
知られていたが、置き去りにされている人々のことはほとんど知られてい
なかった。(その中で主人公はさきだけ原爆のことには興味とあるが「とにかく
戦争せよやろ、原爆は身内のものを奪う人も失うたあつたわ
くしゃらどいさもええと、戦争せよやろ」といっているのを向
あたりに見る。)日本のジャーナリズムに洋子はいじめられた。石で
遠くへ送られるような道へ送られた。長引いた洋子の道は、自我と
自我を慰める故郷の旅だった。

——水戸実業が、東京に死の灰といふもの降ってきた。
「さきを見よ」と私は思った。死の灰にまみれて、くぐりと死んでおと
(中略) どうすれば、人間の魂が現代の不安に耐えようか、おぼろ
めか、いくらおぼろめ、心はわすれらるるかも知れぬ。私はどう
思えばいい旅に出るべきかを考えた。——

(屍の町より)

私達は電車の通りから右へ歩いた。するとそこには右に左にも、道のまんなかに
死体がころんでいた。死体はみな病院の方へ頭を向け、仰向いたり、うつ伏せたりして
いた。眼も口もはいつぶれ、四肢もむくむくだけむくんで醜い大きなゴム人形のような
あつた。私は涙をふりおとしながら、その人々の形を心に書きとめた。

「お姉さんはよくごらんにならぬか。私は立ちどまり死骸を見たりは
できませんわ。」妹は私をよそ見の顔で言った。私は答えた。「人間の眼
と作家の眼とぶつたの眼と開いているの。」「笑ってよ、こんなこと」「いつかはあな
たはならぬわ。こゝろを見た作家の責任ださの。」

(注) 2
22年から大学病院で産婦人科の医者として働いて、そこに来る被爆
者や被爆二世の人がみな、子供を授けたいと悩んでいる。自分自身も被爆二世で
原爆というところから眼をそらすことができない。被爆者や二世に子供がまると、それは普
通の人と違う、被爆者にはかたがた心を開く。子供が異常だとわかると先
はどうしたらいいの、...積極的に殺してしまおう...どうしたらいいの。
と苦しい。語る。百年たっても消えないという染色体異常。ABCは染色体異常と
原爆は関係ないという言っている。まだ胸がたつ医者に会った、私は被爆二世
の女性とどうなるかといふ生かす、そして子供を授けたいと教育同の全口松
之葉は、これも現実的に自分の眼の前にあらぬとき、異常な子で「けい
生かすだ。生かす、そして子供に授けたい、生かす、生かす、生かす、生かす、生かす、
にはいらない。二世の人が子供を生んだ。おどろく、生かす、生かす、生かす、生かす、
や、お姉さん、原爆とは、どうも、どうも、どうも、どうも、どうも、どうも、
お、自分の子供に生かす、生かす、生かす、生かす、生かす、生かす、

長谷川美代子 1974

(注) 2は、注20P1に続く。
そちらで、お姉さん、

広島

① 似島

宇品から15分が似島につく。家がかわいたかんじで密集している。山火事後の斜面が赤くただれている。窪地に猫のひたい程の畑がある。畑にはスイカとナスがある。山を越えていくと入江と家並が見える。うすく白っぽい感じ。土は光を反射するまぶしく、干ばつになって乾ききっている。右リーディングの港の裏手にある山をひとつ越えた若には、カキ養殖に使う貝が白くカサとした感じで積み上げられていた。しかし湾のずらりと見えないくしひんたは着服の汚水、カキ養殖のための二枚が鼻をつく様子。白い貝のかんじとは全然異なり、裏手には何かが動いている様な気がした。広島市内から何かはま捨られる様にゴミ捨て場として似島がある感じ。

似島は漁業が主業をたっている人間はほとんどなく、たいていの人は広島会社に毎日お勤めしている。陸軍の在郷馬匹検査所だったところは現在似島中学校になっていて、その校庭の脇の空地に11層を建てる工事の時掘り出された白骨がまかけになって、次々と6171体の原爆遺骨が発見された。昭和46年10月の事である。

"あの時は全くそんなふうだったのだ。遺体をいろいろ確認して火葬する様な状態はなかった。ただもう一面の焼野原に火が燃

の火をかけた生焼けの魚といった人間が動めき息をひきとり、土を掘って葬るだけかせいひばいだったのだ"。被爆者が似島に軍兵があるのはその者に死体となって流れてきた大きな穴を掘ってまたらに効りにまいたという感じに5、60体ずつ折り重なった様に埋められた。

<よろがやの城下ばあさん>

当時市内から軍兵で来た人を世話した。その時連れて来られた人間が一万人、今埋り出した骨700。検疫所及び兵館に人がいなくなる様につめこまれた。水とくさい臭いで足にしみついて家に帰って顔を洗って生臭い臭いからしみついて寝た。夜うなされた。似島中学校から1キロも離れた窪地には千人塚がある。(原爆後10年余り、数千の遺骨を集めた場所)

<似島学園>

戦災浮浪児のために作られた。倉庫物も与えられない。有様で人員以上の申請をしていた事が発覚してしまい「子供を食いのにおとす」ミミにたたくかれ、初代学園長は自殺していった。現在は虚弱児・孤児等を入園保護している。

生徒はまたくまら出ることを知らない。唯一、年に一度誕生日に市内へ出かけ、食事をしてゲームセンターで遊ぶ。その

他は招待されないが、出る事は無い。しかも外出の時は、金銭を持たせてもらえず、皆これにかゝる券になる。新聞も持たせなかった。外界との接触を持たない生活の中にある。＜15才の少年 - 彼は被爆2世なので、身体の具合が「悪い」として、精密検査を受けたいと思っても、低賃金保健の手続きもとらぬという状態だった。＞

② 比治山

太田幸子や原爆体験記等にたびたび登場する山。火傷を負い、肉親を求め、島中から人々が逃げ集まってきた山。この山の陰にある段原は原爆の大きな被害を受けた。今山頂にはNHKの鉄塔がそびえ、その下にはABCCの建物の建物が、4箱のようにならんでいる。へい囲まれた建物の壁はしみみしみみ、くすんだようになっている。研究所というおもしろい兵舎をおもむせる。敷地内のアスファルトや屋根、壁に夏の太陽がはげしく反射する。人の気配は感じさせない。展望台から市街地をのぞく。観望する。

③ ABCC

ABCCとは被爆状況というより破壊の調査と駐軍の安全に選駐できることを調べることにあり、米厚労委員会と米国学学院との間に結ばれたABCCの運営や財政に関する

書簡に「ABCCの被爆調査はアメリカの防衛と安全の見地からなされる」と書かれている。又米厚労委員会が「ABCCの調査は米国の軍部・民間の防衛計画にとっても重要なものだ」と成果を誇っている。その3Kさんという被爆した娘さんが「ABCCの診察を断ると軍法会議にかけると脅迫された」といって、なによりも、ABCCの本質を占領軍の軍事目的の一環として暴露を深めたのは、ABCCに關し公安を害する記事、占領軍破壊や不信を招く記事のいさひ禁止になるという報道管制であった。又、ABCC労働者も、外では被害者の死体をあつち「ハゲタカ」と指弾され、内部ではアメリカの労務管理支配のもとで、向答無用式にクビを切られ、初任給において日本人と二世では五倍の格差がある。このようにABCCの現状においていまだ占領行政が継続している。

「被爆者はモルモトか!？」温品康子(主婦68才) 亡くなった主人(道善55)以下、一家四人が広島で被爆しました。私達の両親は広島被爆後、お父さんが3日後に訪ねてきて、原爆症になり、母は昭和23年に焼け野原を歩いて、原爆症になり、どちらも向もななくなりました。

被爆のとき主人は揚子江が、うさぎ、たんず。人が「何かが」

「さかしていますよ」といったのでムリヤリ自分ごらだにおまめ、似島の研究所に連れていかれた。その時私は二女と~~三女~~^{三女}に土の中に埋まっていたんだ。二人とも仮死状態だった。主人は治療しようにも看護士もなく家も焼かれ、親戚、兄弟をたよりながら九太、阪大など車に乗りました。「苦い、注射にしてくれ」といいますと、病院は「ヤミの薬です。高級品です。お金のことも辛い思いをします。一寸先は闇、もうどうもええわ」といって、ABCCの方から「あなたのため、こうして研究しているのだからぜひ来て下さい。お迎えに上がります」といってよって溺れるものやうなもつた。「行ったらこの苦みはなくなるのだらうか」と喜びがえにたっていきましか。だけど行って、いろいろ検査され話をきかせるお薬はくれない、三回いっても同じと。迎えに来る人は泣きつううに頭を下げムリヤリ検査について行き血は採る。レントゲン照射を全身にあてる。そして結果は3回とも「異常ありません」といわれお薬もくれない。ABCCはあれだけの経費をかけ20年も経たない、これは私たちの治療に役立つかおなごしよるんかしら……。

主人が原爆病院で亡くなったとき、いきなり喪章をかけた男が来て遺体を解剖させて下さいというんだ。お断りして家に主人の

遺体を引きとったら、まだ葬式もおまないうちにまた来て解剖させて下さいと花輪を持ってくるんだ。主人は生前 ABCC 元陸軍墓地の墓石を建物の土台名にしている写真をとっていた。原爆症で片足を切断されたから自走車が被爆者のために走りかっていた主人は二回め、以後 ABCC の検査を拒みつううにしました。それは ABCC が被爆者をモルモットにしてきたからです。主人の意志がくだらうから、私は3回も来た解剖のすすめをお断りしました。ある日は夜更け場まで来て「30分だけから遺体をかいてくれ」といわれたらうです。ほんとうに被爆者のためならお喜びの心じます。ほんとうに誰のためにも研究する人じゃあな。

アフリカのために研究する人じゃあたら即刻立ちのいておらいたいだよ。私たち被爆者の医療もやってくれるというのならほんとうに力をしたのに……。

③ 基町スラム

広島市中心ハ丁丁居の繁華街、オスス街、平和公園……これらの真中に被爆直後のまおにブラックが競う。入った道と汚物の臭い。6帖一間に30Wの裸電球が一家の人をくらす。子供はおおごの地面にすわって「はしは」。おやじはホルエン屋ごよの親父とヒヤ酒を飲むたごちをこぼす。目が臭いから働かぬ

という。母本名と韓国名を頼文さんは大阪の自分の子供の自慢話(らしい)「飲んべえ!」とかアちゃんがどなりこぼりこぼり、オッチャンをついていく。南無妙法蓮華經の読経があたりにはんはんとひびく。突然頼文がガキをひき取り去る。

人丁堀の天満屋のガラス張りのエレベーターや立ち並ぶビル。戦後のすまじい繁華のなかですべてのものも虚飾にすまじくそらとある中向都市衣島。繁華街のいらだつしかないところからいったん基町に足を踏み入ると、やはりほととせざるような人間の体盡を感ずるのである。今では衣島美化運動の名がもたらしたスラムのほととせが打ちこわされ、蓋の被けたおなな虚に風が吹きぬけている。今スラムの人間は全部紫アパートに押しこめられる。

紫アパート……鉄筋コンクリート造の中はうす暗く湿っぽい。建物は8~10階建てで迷路のような廊下がある。コンクリートの土がなごんだいたが、井にカメラを向けると、ザラザラの壁にひたり身本をたて、妙に緊張した顔でこちらを見る。ケロイドのあるオッチャンがエレベーターの中だ、はじこのほうでじっとしている。今ではバタ屋をしていたオッチャンが

自転車をエレベーターに入れてスッと厚い壁のむこうにきいていく。生身の被爆後、今までの生活をいよいよ変えらねて、おべえ無残な中にかりこめられる。

MEMO

福島町にもどったし、他の人にも又同じように差別された。そして被爆後の都市計画の中で平和観光都市の名に恥じないようになんか目をつけてくれたのが福島町である。今でも8.9階建てのサブパートが建っているが夕刻サブパートの角に立ち止まっていると買い物に出かけるおばさん達の姿は住宅計画とやらで建てたばかり、何も解決などできやしないことを知らんで外面のニとのみ計画の中で人の心はますますと工と入れ一人一人の中に二もっている。

⑥尾長町

噴新しい新興住宅地の中に黒く落ち込んだように見える。屋根は古く壁はうすい。この路地は人気がない。二は直接的には原爆の被害はうけていない。この街し樂の脇にドラック作りか小工の小屋が一角を占めている。二は未開放部落である。

ある小学生の学校の学論大会で自分の二と、本当の二と（天皇陛下と部落）を比べてうとした時、先生と話し合ってくれたら職をいって日雇いしかない。部落民と呼ばれたから私達は自分の子供を立派に育てることを自然に解放されると思ってる。」

尾島 芳 18

夏の夕方 二の町の路地にも人が集まり8月6日の日のことを切々と泣きながらとせめめめと話し続ける。自分の子供を夜間大学にまで入学させたから育って来た老婆も8.6のその日……「五分たつたら死んでしまった」と今でもその子供の遺品をめぐりながらほめたりするようには何度も何度も見る。

⑦段原

比治山の突きかたに糸田長く続く二の帯は原爆の直撃からのかたがたにたまたまを戦っている。この古きは広島の新しさに比べて人々の生活の中に入り込んでいを感じさせる。しかし二の町に道路が貫通させられる二とにより、人々は手づくりの人間の地を軸にどうはわれる。6月以來「わしはやっとなら死に場所をみつけた」とかん強に拒みつけている老人がいる!!

くまわれた古い壁 すすけた格子のある家々に表札と並び、黒い金属板に金文字の「原爆被爆者の家」とかかれた札を目にする。

① 広島デー (女の人のアツク)

もはや全然動く二七がで王が皆と一語に温泉を
まねる二七もで王はくたし一日中下私を見つ寝た王
という方がアツク、写真をとらせてくたし、今
いうと話はいくらでもするし、し写真だけはい
やだ、と強くいいはる、20年と王原爆又女と
アツクリカに渡り、手紙の結果手紙つかえるようにな
った、今の際、東京へ寄り、戦犯として獄中にある
賀屋興宣を慰問し、直筆の書をもらった、結婚を
アツクため、一時は平和運動もやめた、何か利用さ
れていくだけのように感じられ、やめ、した。

今は洋裁を教える二七で暮らす二七がで王は
うにた、教会へも通っている。

壁に「平和、賀屋興宣」というのがかかっている。
私の一番好きな言葉です。

② 宇品港

市電の終点と港の間に何もなく塙末の感じ
港には小工なターミナルビルと少し大工なモー
ポールがある。アツクがびんぼんに発着する

人はホッパリ、ホッパリと出て来る。バスや電車で
よそへ散っていく。ターミナルも静か、人気があまり
ない。

③ 八丁堀

広島唯一の繁華街。市電やバスは二で大
部分の人間を吐き出し、再び多くの人間を押し
込める。三越、天満屋、福屋がその売り上げを
競い、それに今度、今二も加わろうとしている。
今この間の「アツク」街にも人があふれ、二に
来れば、何かがあるみたいで、流行に
身をまかせ、男女や学校帰りの女子校生の群
が集まってくる、街はキラキラしているが
薄い感じ、店も硬くキラキラしている
落ちつけ、来て、今これらの人々の期待に
えるはずもなく、人々はいらついた顔で流
れる様に歩いていく。今二何かアツク
トの催し物などあると押しよせ、いく。(天満
屋の「世界の七」展) アツクのアツク
セーターには、人は二二二、家族連れ

層間から25~26才の男女の子供みたいにはしゃいでいる。

<広島物産流通センター基本設計>

今まではみたような長い時間を経て自然発生的に
にびてきた街とは違い、大規模にマシットな計画で
あらかじめ想定して作られた環境と短時間に人間
が適応していくという。人工的都市実験的都市への試みと
いった側面を強く持っている。

MEMO

(広島P6おりがく) ②

生ぐさい血の臭い、死臭、赤い人いきれ、うめき声

その中から不思議な声が聞こえて来た

「赤ん坊が生まれる」というのだ

この地獄のような地下室で今、若い女が産気づいているのだ

マチの本ないくらがりでどうしたらいいのだらう

人は自分の痛みを忘れて気が付いた

と「私は産婆です。私が生まさせよう」と云ったのは

さきまどうめいしていた皇傷者だ

かくてくらがりの地獄の底で新しい生命は生まれた

かくてあかつきを待たず産婆は血まみれの持死んだ

生まれめん哉

生まれめん哉

己が命捨つとち

(「生まれめん哉」粟原貞子)

④

父の遺体を焼いた小学生の私

文 洪蓮 (主婦 40才当時江波川6年
1.3km地奥で被爆)

手なし人どこの目で身だかわからない人「アイゴー アイゴー」
と朝鮮語で叫ぶ人をよそに、私(当時13才)は何がなんだか
かわからないまま学校で先生からもらったお握りを握り
しめて泣きながら父のいるうちへ急ぎました。グシャと何
かを踏み見ると死体のおなかに尿がのめり込んでいた……。
そんな恐ろしいめにあいながら必死に走りまわった。制材
所をやっている家にも、とたどりのき父の姿を見て私は思わ
ず「父ちゃん」とつぶやいていきまわった。その顔面はヤケドに
至のごとく、ふくよかさがりなとんどはだかのような顔に
なっていました。「ゆき子(私の日本名)水をくみや」「ゆき子胸をさすてくみや
……」私は嫌悪の中で急に苦しめた父の首筋をさしました。
何度も、暗くて死体のゴロゴロしている河原に行き、手ねぐ
いに水をひいた顔にかぶせてあげました。またシャツのあい
だからだらりとただくたさながら、涙ふくくマキ口をたらす
と父は「ワー」と大声をあげるのです。

十月十一日父は息をひきとったのです。泣きながら私は
校庭のすみに行き、塗木や柱の燃え尽きりたてで父の死

体を焼いたのです。頭と足は早く焼けましたが腹や胸はわか
り焼けません。「早くマキをくべろ」と係り官の人にいわれ、私
はイヤイヤながらマキをくべたのでした。窓カンに入れた骨を腕に抱
いて私は途方にくれておりました。でもさしいなことに親切な方
に、14月150円で子守り代をもらい、なんとか生きていけるように取りま
した。そのころから、私は顔の毛が抜け始めたので三角ズキンをかぶ
ってかくしておりました。何年かかたち特別被爆者健康手帳
がもらえるというので申請しました。ところが原爆にあったという
証明書もなければ保証人もないという理由で断られたので
す。二度、三度と、どなたかに詳しく説明しても、もらえません。日本人なら
すぐもらえるはずですが、私は自分が朝鮮人だからと思い、一度は断
念しました。

ところが、江波本町の米の配給所に、私たち家様の名簿がある
ことがわかり、やっと四月、五度目の申請で手帳が交付されたの
です。

『20年向、放りっぱなしにされてきた』

「長い被爆者への歴史」・丸茂つる

昭和19年私は父の故郷である広島に疎開した。夫と死
別した二人の子供をかかえた私は仕事で郵便局へ行く途中

長い板の橋を架大橋(深心池より17キロ)にさしかかると、
B29の爆音を身に感じ、思わず思いながらも二、三步進んだでし
うか、ザラザラというものすごい音を聞きながら、私はブツ倒れ
てしまいました。~~身を握るが~~気がついて起き上が
ると右手にボロボロにちぎれている文書の袋のほしだけをしが
りと握って左胸は青い炎が皮膚を灼め、あけて消したら
皮がズルッとむけてしまいました。昭和35年「戦争の犠牲者
たちから国が責任をもって訴えてほしい」と政府に訴え出たに
もつかかわらず政府は沖縄の現在の立ち場としてはアメリカとの
関係があるからおもてがたにできない」となっかむりを決め込
むばかり。

在韓朝鮮人被爆者の証言

「日本が憎い」

いつもしかめい朝を迎えました。

子供はいつものように学校へ出かけ、少し遅くに夫が帰ってきました。
た。しばらくしてピカーッ!! あとは何もわかりません。

全身がひどくやけどをたれ、くずれた服の下敷きになり右腕を
切断されておりました……。やっと身動きできるようになり、故郷の

韓国慶尚南道の晋州へ帰りました。韓国へ帰ってからの生活は、

最低の生活です。私が四年近くも患っていたし、子供は頭がホ
ッとしりぞき、一家はメチャクチャ。どうにも生活ができなくなり、私
たちは釜山に出、夫が煉炭かまりの日雇い人夫として何とか生活はき
ました。その夫も原因不明の病気で七年前にとうとう死にました。
こんな私たち韓国原爆者の窮状を一言でも日本側に訴えよう
と思い昨年の七月朴大統領の就任式に日本からこゝろの佐藤首
相に訴えようと日本大使館へ行きました。

そこは私たちを一歩も中へ入れず、そこへムリに中へ入
うとするに近づいてきた警察官が「クルマに乗れば佐藤首相に会い
せてやる」というのです。ところが私たちが連れで行かぬとそこは
鐘路警察署でした。そのとき、くわし、釈放されたとき、佐藤
に佐藤首相が帰った。

その間何もわからぬまま警察に半日以上も監禁されたのです。
私たちがこの目にあめたいわけは、何のわけもありません。
したのですか? 誰のために、何のために、原爆をうけ、韓国でこ
ろどまどに苦しむなくてはならないのですか。

原爆の責任は日本にあります。その日本のいちはんイライ人が私
たちのささやかな訴えをひとことも聞こうとせず帰ってしまつたのです。
日本の責任ある政府、謝罪を要求します。

(5)

この20年間に外観的に日本が一変してしまつたことは内外の識者がひとしく認める所である。国土の外観ばかりではなく社会の基盤も底層をいのように崩れた。これは明治100年の変化を10年に圧縮したような教訓であつた。

確かにこの十数年の間に数百年の歴史をもつ村のほとんどが死に常民が死に古い共同体がこたからである。敗戦後30年前解体した天皇の軍隊から故郷にもどつて来た人々はつくづくあたりを眺め回し「国敗れどもなお山河あり」とつぶやいた。それが今日では

— 国は栄ゆれど山河も村も破れ 無 —

この為かここ数年来柳田国男グループがつづき民衆史民衆思想史のグループが起つてゐる。柳田学の主役は「常民」。常民とは山人とは違つて里人であり、農耕や漁業に従事し、里に定住し、標白などはないもの。祖先から子孫にわたる「家」の永続を願ひ、その生命の連鎖と愛慕の交換を喜びとして生きてきた。その常民が死に絶えつつある。

日本がコンクリートとガラスとプラスチックの合成

物に変貌してよいと認めたと今さら柳田の描いた人情凡俗を採りかへるとは何たる未練！
本当にこゝちのものを代る新しい共同体の現代の常民がどのうに創らぬかあるか——。この方に我々は関心をむけるべきではないか。（中央公論8月号 色川大吉）

長崎

あまた、ほんとに人間は死んで行く先が無か死に
ようしよう時にはこうして両手は前に垂れ下げて息
の切れる前からゆくりほんまこつ幽霊の手つきになっ
て歩いてゆきますとばい。糸会と事ではありまっせん
と死の手つきは、ひと戸所に寄り合うて死んだ人間も
一た道に何れも死んだ者も、ひよるひよる両手
は前に垂れ死なん前からゆり先無うなてー
ヒカの時はおく死にましたからなあ。うちの娘は」
(琉民の都より)

2. 稲佐山

街のフカン

ここから街全体が見わたせる。市街地から山が三方
にせり出してすり針状の地形の中に家が山の中腹あ
たりにあで、ひっそり入はりついている。
小さな家が重なりあて、ひしひしとしたり小高い所には
天皇が泊まったという矢太郎や海軍高校のきれ
いな校舎が見える。すり針の山腹はいくつもの
寺がギッシリと並び街を見おろしている。

③ く十字架山、キリタン墓地

山の頂上に十字架が一基建てられていて春と秋
にカリリツのミサが行なわれる。その途中の
山道には13基の十字架がキリストの受難を示す
ことばが記されている。この山道の途中に
小さな畑があり、そこでカリリツの老夫婦が働い
ていたりする。

④ 三崎市内

平和公園、パイナッパ売りの婆さん
「原爆で子供を使い、夫も戦死し、食うものも
食おすイモを米にしてとれぬとしたカスも食おす
生活もしてきた。私がこんなみじめな事にならな
こども、私の運命です。私は今までまじめに働
いて来た。本当は日本中のみんなが原爆で
死んだらいい。損をするのはいつもまじめに生
きた人間だ」。
最近の観光客は自家用車を持ちきれいな服

を着て平和公園に来る

いやな事がする写真を撮ることを外国人だたら許してやるか日本人には絶対許さない」とり言ふと商売人の見せる女の営業用の笑いにどどり「アイスクリーミーかがですか」と呼ぶかけた

被爆再婚同士の若夫婦

被爆当時のことを話した後、こちらが太田洋子の「---もう一度原爆に会いがいい」という事を押し出すと妻の眼がキッと怖くなり「そんな事、そんな事になったら私は死にます。女の当事のことを思ひと今はどんな苦労をして生きていける」と言いきった

又自分の息子が被爆の者、結婚が遅れている事をすごく気にして帰る間際、「どうかこのことは絶対他人には言わなしてくれ」とたのみこむ様子が感じられた

⑤ 古びた小工場の工場（仮工場）が続く

50-65ぐらいの男が黙って行く

「こんなひどい仕事、巻いた又3日と続いたことはない。」

「今型を運ぶと手に火が燃えついて大やけどをして病院に入院した」とたんと人と語る

このたんとと言ひ男の胸や腕にやけどのほくしとどかある

互工場

クロイドでびびった顔を少し動かさず蟻の様に車を運ぶ婦人

ゴッコの老人（70才ぐらい）がセメントわり器のローラーにまきこみ水さくになりながら歩く

もう一人の老人は申てが「ここの体をぬいませ」耐えることのない単純作業をくり返す

いつまでも続く拷問の様に生きていくことが見えただけ耐えることがない 彼達のこりかはないは。

⑧ 城栄町 城山小学校

被爆の時に土台だけ残り、残ったのは校舎が
鉄筋だけ、柱が割れ、くちが壊れ、残った
原爆で死んだ娘のことが忘れられなくて娘の頭の良か
ったこと等を話す 墓が近くにあり、自分が死ぬまで
ここにいたい 三菱につとめていて死んだ人はい
会社から見舞金や種々のほどに、これが世に
娘には何とエピソード

⑨ <緑田町 目覚町>

原爆で焼け残った木を、柱を立て、柱に建てられた一
軒の家が、山に重なり合っているように立ち並ぶ

⑩ 朝鮮人被爆者

昭和16年頃から激しくなった徴用に、つかかされた
じ、8月9日被爆した人
ワニは長崎の三菱造船で仕事をし、家で飯を
食べるに行くと、空襲の警報が鳴ったので
近くの防空壕へ入った人、そこで被爆した
ワニは、もう結婚した、2人の子供がいた

その年の11月4人連れて馬山へ帰って来た人、
ワニは体に足踏巻き松葉杖で、こまきまきの怖
ろかった、翌年子供2人が原因不明の病気で
亡く、つぎに死に、年内でその3人がおかしな
たのか精神錯乱も起こし、子供の復讐し死ん
で来た

⑪ 丸山

花月一300坪の「史を誇る遊郭(花月)回りには
古い三菱の重機等が、高層車で花月に来る
売春婦が、どす暗く重く立っている
どの窓にも、破れ始まる、これがかかっている
2.3階建ての古い木造の家が、狭い路地の
両側からかぶさる様に立っている
一目で裏で「売春宿」と解る感じ

⑩ 寺町

出島を囲む様に山の小高い所に寺が"まっ(り)と並んでいる。寺から町が見渡せる。寺町の下に土田の道に沿って仏具などの古い小さな店が並び商店街が続く。いかげつの橋がいくつと続くと夕方になると夕涼みに子供達が"出てくる。カーテジやカーラーが"全然目立たない様になっている。何かを喰い込んで"感"。

— 中国人の菓子屋の婆さん —

原爆で"死んだ"娘のことが"忘れられなくて娘の顔の良かたことなどをずっ"と話す。墓が近くにあって死ぬまでここに居たいと言う。話す時"いと隙を見て話す。着が"えを"来て正に"縁"になる。

⑪ 三菱造船工場 (30万トンドック)

周囲から隔離し、中をおおひ隠す様にいかげんか。工場の回りにえんえんと張りめぐらされている。夕方引け時工場から吐き出す工員で"バス"停や船着場にかけての路が"みるみる埋めつくされていく。

東洋一と言われる巨大なクレーンが"マッ(り)箱"の様な姿を呑み込むようにはり出している。

— 飲み屋 —

会社から帰ると毎日同僚が集まって酒を飲む。三菱は船の造船の時、人が"何人も死ぬ"ことを予知し、その補償金と見直しの中に入れている。

⑫ 三菱 30万トンドック

平地を空で奪りぬる山腹にへばりつく様に建ちあが立つ。ただ人が"通れるだけの道幅を残して"る。土人"三菱"の長崎です"から"ね。三菱で兵器が"作られる"と下請の人間に"対して"はた"え"工場内で"死"の"う"を"ゆ"ず"かな"金"で"清"ませ"れて"「まあ仕方がないですね」"と"答"えて"け"る。溶接工員が"タンカ"ーの"炭"酸"に"ア"リ"の様"に"へ"ば"り"つ"いて"いる。"焼"け"こ"ける"様"な"暑"さ"の"中"で"全"身"真"屋"に"日"照"れ"し"土"半"身"は"た"か"で"お"も"て"お"耐"え"切"え"ず"に"ド"ラ"イ"ア"イ"ズ"を"背"負"って"作"業"を"す"る"こ"と"が"あ"る。

⑬ 小曾根

クラハ一軒に 小曾根所 砲台... 国分所 小曾

と続く。対岸に 30トントの横たわる。

煙にかすむ中に タンカー 貨物船が停泊している。

かい間見る三菱造船 トロツクからは鉄を打つ金属音の 騒音を静かに響かせる。

この所一帯は 大三菱と対をなす、細々とした家内造船所が 密集している。顔じやう機材油をぬり込めたいように汚れつまずきまじし込んだ 粘りついた男屋が 体を曲けて 水玉も小らまの ハンマーを小るう。

通りの向うでは 山にへたりつくように 長く古く黒々と汚れた 小屋の家が ありあつたように密集している。その一角にもう一段 小工くくす小に家並が 知々にある。 今にかつて強制連行の朝飯袋部隊があるという。 油に汚れた 臭いは 匂いほらとさせる。

小曾 所は 崖を切りくすした 猫の窟ほどの 処で 小型船を造っている。 いまにもくすれ とうな木の 階段を三階くらい 降りると ポンチの壁に 散乱

し二階の 居間兼事務所は 人員の なく 暗い感じの ボウーと いる。 二は 男も女も 区別なく ひたすら 黙々と 働かす。

小曾根所 中水道船所、又 7317 所の 対岸の 三菱造船所と 向うを みるから、と 建ち並ぶ。 薄暗い 工場の中を 溶けた 火花の パツパツと 散り ハンマーの 高い音の びびく。

⑭ 表之平町
宿務



地面の 木機材油を ぬり 汚く する せいで 汚れた 油を 流す ところの 臭いは 匂いほらと させる。 エンジンや ポンプや 鉄の 打撃の 中を 油に ぬれ 日焼けした 皮膚が さらさらとした 熱い 照り返しの中を 黙々と 働かす。

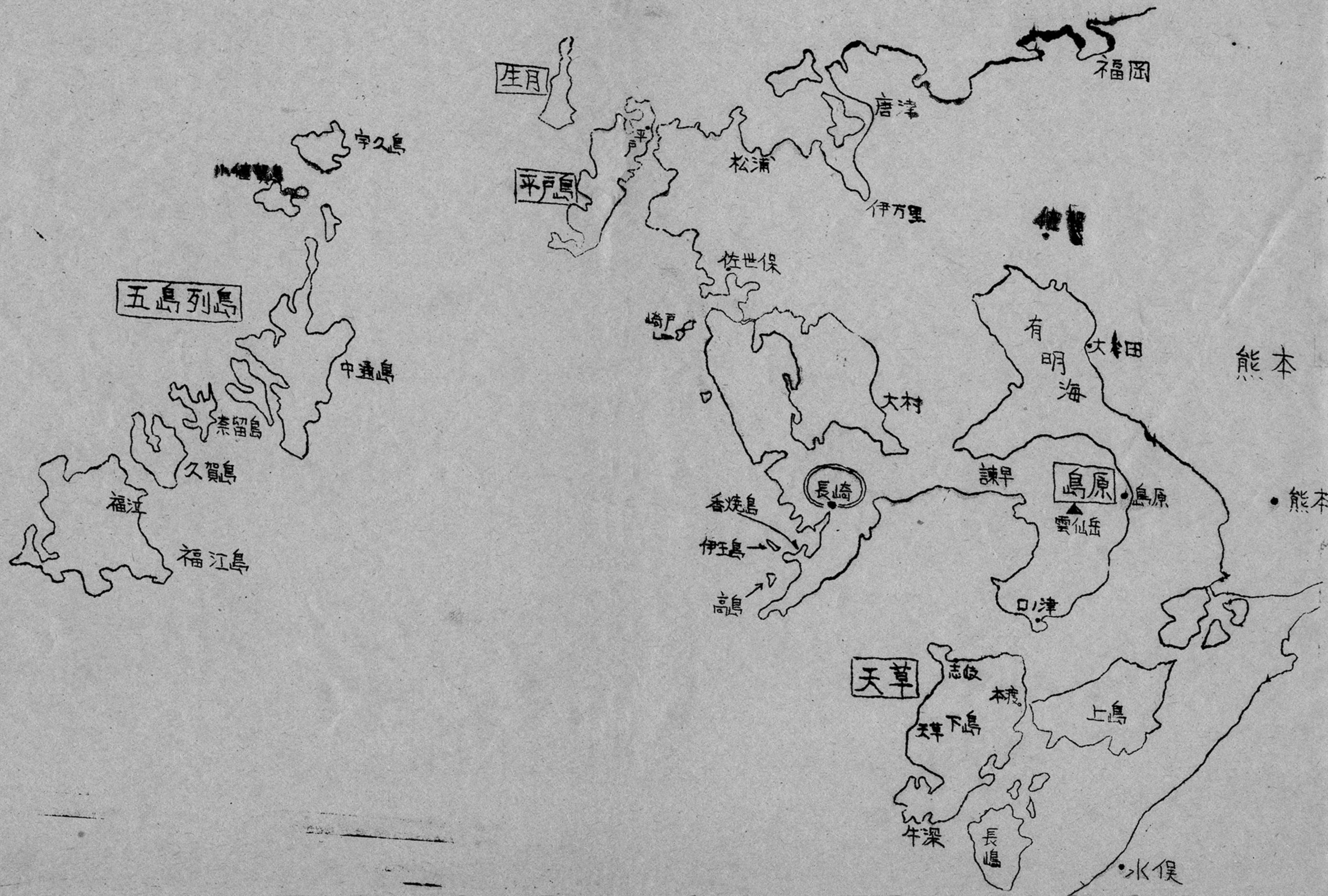
小の方は 小を 埋め ぬく ように せりしめ 頂上まで しまつた 家並で 人が やり 通れる 位の 石の 階段が 急な 傾いで、 ぐれ たり、 水道管が ぶら下り した まま ぼろぼろ なる。

大鉢
幾時代

造船所で強制労働させられた朝鮮人らの収容所。廢墟の中に足踏建て長屋の様子が棟。足年前台風で1棟がくずれ瓦は、くずれおちペンペン草がぼさぼさはえ生えている。ね、暗く足電球がポーンと積り重なり、たほりの臭いがアーンと静まりかえった暗やみの中に立ちこめる。時々遠くで遊んでいるガキの叫び声や、すま風で紙くずがカサカサところかきまわす音が響いてる。

原爆のおぼけたあと一番最後まで死骸の残ったのは朝鮮人だったよ。日本人は沢山生き残ったが朝鮮人はあんなに生き残らなかつた。とこの人もかんもでさん。死体の残る場所で朝鮮人はわかるよ。生きるときの時を寄せられとったけん。牢屋に入れたとて仕事だけ這いも立ちまわらんしにせよ。やれで残った朝鮮人達の死骸の頭の前にはカラスが来て食うよ。どこぞから来たカラスじゃあるか。うんと来た。カラスが目玉ば食いよる。アッ、アッと思え（見とよは死体の動いて動よると思え）蛆の動よるとよ。ゆで日本人も困たしどよ。臭かたけん。諫早の刑務所の青部隊は連木がアッアッ焼くごとして焼きたかいた。まず木

ば持ッて来て並べて朝鮮人はその上にすた、と並べる。まず枝木ば持ッて来て並べて朝鮮人はその上にすた、と並べる。その上にまた枝木ば並べる。前に並べて下からガソリンを火をつける。なかなか焼けんといひぬ。牛糞のごとて下にポテポテおちよるとよ。魚が焼くよるとよとおんねいよ。~~（長崎の長崎）~~
香焼島炭坑におたしてすよ。夫婦とも、おたら原爆で戦争が終つた。ゆえ、いひも知らずにおたしてすよ。あいつがとロボ、はやしたことは、高焼耐の女人の売りよたことはやりよるとよ思うした。ゆえ、いひも知らずして屑物は扱ひよるとよけん。二度まで知らした。三度目に警察から知らせ、調べにきて、びっくりして連れに行つた。警察におらんという水上署のさしよとていことよ水士署に行つた。会せんとあつた。ゆえ、あの子はあの子ばかかえつたといひぬ。会せんとあつたあつたか、この子腹へて死んだら責任とよかとさし出した。男の乳はあらんよとあつて泣きよるとよすよ。乳のみよつてしけん。ひとりてゆえに言ひんと苦勞したとてすよ。うちのあれは水士署でも困つて赤んぼごとに入れておたこの中で炭おこしおしめかわかしたりやげんしてこの長崎の水士署も困つて赤んぼごと入つてくれおたの中で炭おこしおしめかわかしたりやげんしてこの長崎の水士署の置置場の中でおたるとよあの子は。



島原

① 山奥の...

あせが石垣で作られている水田がゆるい段々畑式に山の方までひろがっている。赤の方は石が流れて小石と土だけがむき出しになった海岸がずくと続く。屋根瓦は古くコケおしていて家を押しつぶすように垂直感がある。

南有馬では古い家は漁師の家。新しい家は年に1-2度しか帰らぬ船員の家。老人は漁師若者は船員となる。1度船に乗りは8ヶ月や1年は帰らない。家族は神戸や横浜へ行く。この辺の農家は平均して1所歩くらしいの田畑は持っていない。忙がしい時以外は土方に出ている。

② 大河内、上海に行った老母

こんな山奥の農家に暮らすをうめたくない憶いして上海に2度も行った。1度日は1人で看護婦をして。2度日は姉と弟の2人を連れて佐藤長つのおさん(唐行さん) 83才

13~15才でベトナムに売られていった人で彼女の西見は

別居して父親はたいへんな酒飲みで、彼女も親をたいへん憎んでいた。S2/年に強制送別送還されて着のみ着のまま50年ぶりに帰ってきた。本名では唐行ということか分かるのでおもとと名を変えて(誰でも唐行ということを知り)ずと、1人で暮らして来た彼女は生活保護もことわりさかなを山奥まで売りに行ったり海草をとり山を丸売りにしているが金銭は1万5000と7000のものがある。山は1日500円位しかならない。貧乏であつても近所つきあひ親戚つきあひにはかた、家はトランプきの小さな平家で置はすりきいてベコベコとへこんでいる。炊事場はうす暗く小さなたべなどが並んでいる。へやのやは持ち帰ったらしい。反対にはトランク2個、ぼろぼろのふとん古い鏡と自分で造ったような粗末な仏壇などがあつた。顔は行方ではないうつてしている。左の薬指には銀の指輪が食い込んでいた。

③ 小浜

山とくっつくように道が続く。道路より低い所に家がゴチャゴチャしている。山前山があったらこういう家はあつたという間にあとかたもはく押しつぶされてはいらぬ。

④ 雲仙

昔からの高級なゴルフ場、温泉街、国立病院、島原の女が仲居、バーのホステスとして働きに来ている。

地獄でキリシタンが処刑された。

⑤ 口之津

明治・大正と天草などの石炭の積み出し港として栄えた。遠く、シヤワ、スマトラ方面に炭鉱船に押しこめられるようにされて、唐行さんが売られていった。

⑥ 島原城跡

島原の戦いの時、島原民が立てこもった岩窟は現在、葉が幾重にも重なり合うようなみかんの木が繁茂し、とすると、熱い空気が漂う。(注2)

天草

⑦ 本渡市内

飲み屋街のはずれにファミリーが3軒、いすも古い映画館みたいな建物で、淡い色の壁にボロボロと汚れたシミがついている。真風間 入口の戸を開け放して、ニイちゃんが敵いながら掃除している。中からカンカン音が

流れてくる。細い横道に入ると飲み屋、安っぽいバー、ダンス喫茶、ビリヤード等がゴチャゴチャある。外から入ってくる者が、片手はのこ、あちこち口を開けて待っているみたいに目立つ。

⑧ 今富の 大西 かよさん

生まれてすぐ父親に死に別れつた時に母が再婚し、兄弟3人が残された。長男はすぐに三池炭坑に働き、兄弟を養ってきた。よかさんが15才の時、兄弟を男にすて為、サンタカンへ売られていった。身売金が200円、毎月200円で、その内、半分を親が持つ。当時、今富の町で、10円持っている家はなかった。食事も朝・昼・任ばかりで、夜だけが麦飯という生活であった。15才の時からサンタカンのお国さんの女郎屋で働いたが、イギリスの旦那がついて、年期が来た。女郎屋では日本人の客はとらせなかった。イギリスの旦那が本国へ帰った時、一旦日本へ(今富)帰った。指輪や衣服を船に、いっは、積み込んで帰った。しかし、村でも落ちついて居られる場所も、よく近所の

人と話をする事もあまりなく、居たたまらずだんぽが帰る
よりも先にカンヅカンに帰った。約2年程して病気のため
やむなく日本へ帰ったが、もはやよかさんにとって住む所
はカンヅカンしかなく、もし病気にならなかつたら
帰らなかつたのだらうといふ。しかたなく帰ってきた
感じである。病気の時持ち帰った指輪も着物を
姉が価値も分らず売りとばし無一文になった。
病気がおぼると無一文のまま満州に行き、飲み
屋で働いた(10年間)。そこで大西と結婚し、
一見かできたが終戦で京都へ引きあげた。
そこで親子3人の生活が少し続いたが夫が好く
判りぬ息子と乙女今富に帰ってきた。(注3)

⑨ 志岐炭坑 - 帯広町・志岐

現在400人で、1つの坑口で、海底炭坑横穴式の
炭坑。天草の人間が半分。他は北海道、飯豊、
漁賢 - etc の炭坑から流れて来た。40代50代の
人が多い。肌が真黒い。正社員は若干で、あとは日雇い
で、保険がきかない。坑内は丸太を組合めわ
せただけで、今だにスコップとつるはしで全作業する。

地面がボタでできている。靴をはいては
熱くて10分と歩くといらぬ。

⑩ 牛深市

畑仕事で汚れた太い左右の指に、右の
指輪が4個。「これは1番上の娘、こはは
2番目の娘が買ってくれた。こははXXさんが
旅行のみやげに買ってきた。だけとこは
はこははの買った物はくれない」と、こは
はからカマを振り回してゲツゲツ笑う。

⑪ ^{おき}魚買

2番目の娘(19才)が、自立不働で食、必死
にシャワーの音を待っている。凝り固まっている
ような眼をして、話しかけていっても表情があまり
変わらない。ボリボリと答えたあとはただ
いとしていふ。

社宅が立ち並んでいる。廻りはひっそりとして
赤・黄・緑に塗り分けられた社宅の瓦屋根
が、遠くにも連なり、ドロンとした音が空に響く。
見える。

⑩ 大工

長崎で生まれたバアマン

家は 2年前建ててもらった畳半と板間に
住んでいる。非常にせまいの上は土間の
じゅうたん下は腰巻までだけの海辺板間は
団扇裏とフクロボンガスのコソは他に
ナベ、カマなどかきめちやくちやくにつんづいてある。
その人の茶碗はひびきが入り香み口は
かりだいた。

畳の間は押し入れかきあきか 畳の上にはほろほろ
の布団が積んである。

西側の海岸線は山々に海がせまり 細い曲りく
ぬった道路が 山にそって続いている。山と山との
右側などに小さな部落があり半農半漁が多い。

⑪ 崎 津

山が海にすじ迫り 畑はほとんどない。漁。港
だが魚の生臭いにおいはほとんどない。

海岸線の家々のかたまりの中にヒュコンと灰色の白い
教会が突き出している。

* 島原、天草の乱 以後 逃げて来たキリシタ
のここに住みついて隠れ住んでいた。
百年以上してからその事が発覚し、新
改めなど行なわれたがオノ
島原、天草の乱が起ることを恐れ
藩は緊張し続けた

⑫ 村岡伊平治

そのころにも人口過剰などの事情に苦し
んだといはれなりに理解できずが 村岡の
母たちが 志し野に先んじて南へ去る
と 渡った行状行為の異常さを説明してく
ることはできない。

ここに南洋一円の総 元帝とに君臨した
村岡伊平治の存在がある。慶応3年島原
に生まれる。13才の時父が死に家は没落。
明治13年長崎に出る。弟妹6人と母と
妻と8人をかかえ昼夜働いたが生活の貧困
は変らなかつた。その頃上海、香港など各地
で行商で回っている話を聞き外洋への天竺

いだった。香港を皮肉りに天津・上海へと流して
いった。各地で天陸豊地の町々にまで送られて
いる多くの日本の女のおもむきを知り ~~千代子~~
アヘン女たちを救出した。女世言代と救出
の際の費用もとりもたせうと香港・シンガポール・ハノイ
の各地の女郎屋にゆかりをつけここに女術稼業に
のり出すに至った。1889年(1889)シンガポールに女郎屋
を経営 さらに誘拐者の宿元をすることを目ざつた
ここに前科者の集団 村岡伊平治誘拐団を築
くのである

ある日伊平治は皆を集めて一場の訓示をした。
「それか諸君に言いたいのは 諸君が生まれ
おからにして 日本国民として 国家に仇もなし
国民性を失い 身を多しくすして 尊い 祖先の墓に
足を踏み入れることもできぬ人間になりかかっていること
である。おれはそんなことをまことに不憚に思うのである。
そこで おれは 諸君がいま一度りはおな 日本国民に
なり 国家を築き上げる大事業に たすさわりの一人
でも多く 国家のために御奉公する人間になることを願
うのである」 改心のため 罪状に立を立たんと

誓い合った この集団を引き出し 伊平治は 明治
22-7年のわずか5年の間にシンガポールで手が
けた数だけでも実に合計3222人の多きにのぼり
こし此外に 伊平治の手をへなかつた女を食わせると
5000人をこえる。南洋南洋として女郎屋を開くことに
国家的見地から意識を認めた。伊平治の手記の
一節で 女は困えに持紙を出し 毎月送金する。父母
もせ心し近所の評判に掛る。すると村長が聞いて
所得税を掛けてくる。国家にどのだけ為になる
かゆがらばい。主だけだけでなく 世の家のお福に
なる。そればかりではなく どの南洋の田舎の地
でもそこに女郎屋ができると すぐ産物屋ができて
日新から店員がくる。その店員が独立して開業する。
会社が出張所を出す。女郎屋の主人もコンパと
呼ばれるのが 嫌な商売を經營する ~~人~~
その土地の開拓者が増えくる。とうちに日新の船
が着くようにする、とより具体的に記されている。
19世紀後半日本帝國主義の南方植民地政策
は ~~これ~~に押し進められ、ここに 国民として国家から
はじき出された 一明治人がみずからは欲望の

おもむくままに如血を吸って生きながらも、激しく
もつ続けた国家主義と利欲とはまさに合一した。
国家と伊平治の利欲に塗りつぶされたこの
南洋南洋のかけかきにあるもともたしい犠牲者
「女」たちのおくろが果々と横たわっている事実をただ
気がかばかったようである。

平戸

⑭ 平戸 - 三喜いさん

いつも陽の当たらない奥の部屋に居る台所と前の部屋の
間の柱に「女誰々来、女誰々去、女誰々去」と書い
た黒柱をぶらさけてある。「写儀の頃 学校の先生は外日
へ行けとマんに教えた。日本が荒廃するには国家主義
が一番もうかる、土人はあうあうで金バカじゃ、金ばか
でももうかりおたことでは。」おじさんも金もうけしたかったこと
と聞くと「それが当り前のことじゃったばあさん」それに借入しきると
外日で成功しなかった。「今の平戸の人は人間がこまうてバカばか
りじゃ。」と云う。〔七月のたんざくにオーテレビとか冷蔵庫とか
書いてある〕

は月島(注5)

⑮ <古江の老夫婦>

一番うれしかったのは娘が高校を卒業した時で、苦労
した生きの中でいかに考えていたのは娘の事だと言ひ、又足
を怪我して一週間働けなかった時、芋とほんの少しの
塩で暮らしていた。その時の塩のおいしさが今でも
忘れられぬと言ひ、又婆さんは賃金のあまり
泣いたこともあった。

娘が高校に行っている時か、お婆さんがたかたでズック
はバカッとかあいたまま学校に通ひ、娘は回り
から言われたことを帰ってから私に言う。又近所でも
高校に入れる位だから金を持っているんだらうか
言われてくやしくて、くやしくて意地になつて頑張ると
その時の気持ちをぐらとおしこめたように言ってくる。
オリンピックの時、近所がテレビを買つても
テレビが無くて、娘がテレビを見たいと言つたので
5円握らせて電気屋さんかどこかに行つて、お店
で30分位見てもらいに行った。

⑯ <大津親のおばさん>

45~6才のおばさんが三枚のたけのこの葉を
きれいに切り取っている。子供が8人で上の4人は

17. 立端島

島の回りの海は赤茶けすごくにごっている
外から見るとコンクリートの断片でひびが
入っていたり、よごれた感じがすさまじい。島
を回るのは10分程でコンクリートのアパートそれが
湿ったこっごつした感じである。整理されてい
るというより粗雑に置いてあるという感じ。(炊
事場・洗たく場)

樹木もはえていない島 8階も9階もある
コンクリートの建物がぎっしりと建っている島。海の中
の恐しい監獄島 - 三菱立端島炭鉱「追われたい
く抗夫たち」

正しいかこへ来たが最後、ハコ(無断の職場離脱)
も許さん。口返答も許さん会社が認める公傷以外
の欠勤も許さん。万一それに背いたら容赦なくニッポン
棒と叩き上げるぞ。そしてこのエイガン400(毒針
のついた赤エイの長いシッポ)で死ぬまでぶったまが
れるんだ。覚悟しておけ

「ひとたび穴の中に投げ込まれたが最後二度と
再び地上にでることはできない男たち……」

なくなつてゆく自分たちの運命と考えることにはあ
のめじめな抗夫男達の姿がまごまごと蘇ってくる
のです。 今年の2月に岡山しその後炭坑に再
就職した者は少なく他の若^達は、奥東、南西、九州など
に送られた。 - 熊本で就職した男が生活苦により
自殺(1月300円の生活費で生活していた人達
が島の外に出るのだ。)

18. 高島

坑内で死ぬ人間は多かた。一日もこうじゃと思えば
坑本一本惜しくて柱のささえもせんでおくれ、落盤
やらガス爆発はもうしょっちゅうありましたよ
今みたいに新圍や4ラシで騒ぎ立てせしませ
んよ、栄養失調で死んだのも多いです。あんな
体で死ぬまで何かすんですから……。暗い
坑の底で……」

☆ 日本帝国主義は侵略戦争を遂行する
為に1939~45年間だけでも100万人以上の
同胞を強制的に日本にかりたてた。さらに軍
人軍層として31万も戦線に動員したが、朝鮮

内に働いた。485方と合わせると実に600万を越える。

『さうたまたさあつたばい、人殺りが日本人もたたくけどそれより朝鮮をひどくなぐるばい、むげないごらた。スラッキで叩きまわした。血が噴き出るばい。食うもんもろくろくなかとは、ひょうひょうと歩きよると、ニラ〇というど叩くとじゃけ 朝鮮は戦争中は食べもん無しじゃ。はキュウリを^すんなり二本くらい食べよた。それだけ朝は弓矢でよろよろしてつた。骨ばかりになつてのむげなかつたばい』

「或は五島に新炭坑を発見したん夫を尋ねると唱え、あるいは何専業何工業と唱直して、巧みに無知の食したかたが三円五円の金を以て男の子を雇ひ入れ、明新火の汽笛一声火煙を捲して孤島に運れ来り、遂に生涯郷里を見ることは能はざらしむ。あ、日本国内にこの島あり、この島人あり、天日の明光なる土を照らし、この民を救はざるは何ぞや」

「明治17年の夏該にコレラ病の侵入するや、三ヶ所の坑夫中その大半すなわち千五百余名は該満

の爲に死せんと知り而して炭石蔵舎はその死する者といまに死せざる者とを内かぎ発満より一日を終ればこれを海上におく(大鉄板上において五人もしくは十人ずつ焚焼せしむ)。

高島は周囲1km。人口が1万七千人、戸数4337戸うち鉱業関係者、3600戸農業、漁業もゆすかに居るがみんなが三菱金坑業高島鉱業所で生活しているということになる。そんな小さな島に鉄筋6階建てのアパートが60棟もひしめいて、アパートしか目に入らない。

日雇いの流れ杭夫を集めた炭坑で、船着場と反対側の入江に、三軒一棟のアパートが斜面にへばりついた様にして、低く薄い感じである。そしてマッ4箱を置いた様にとつてた感じで6階建てのビルが建っている。

畑が続く。

⑨ 戸岐向

赤茶けた土の中に町がほらいている。赤茶けた土は黒もたたくた単調な中にある。赤茶けた橋もたたくてしまった。廃墟のようだ。

畑を作っている。今雨が降ると背丈の切り立ったがけから土砂が家の縁まで流れ出ている。兄さんが畑の中、食うものがなく、マシで岩をぶちこわし芋畑を作ったこと、存郷軍人が堂崎のキリシタに娘を嫁がらせた話をもう一人で立っているものつらいように下駄箱にひっかかっ話す。淡々と。そのとほりの部屋では、中学と高校へ入っている姉妹が何度も何度も同じ歌をくり返し歌う。

[注1] 長山崎へのアプローチ

五島列島は九州の最西端にあって大小150余りの島で構成され、その面積は63.634km²、長山崎の1/6に相当する。総人口は約15万、島民の大半は鰯・牛魚によって生計を立てている。名産は「五島イカ」西海国立公園を随所に持ち、美しい肌、陰山判子等の自害と忍従の悲惨な歴史を深く刻み込んでいる。

まず五島列島を紹介しておきます。

僕が島を訪れたのは観光目的で、陰山判子の内能を調査するつもりはなかった。昨年の本誌6月号に掲載されたdocument 1961, 62 Nagasakiを御覧になられた読者はおわかりになると思いますが、おめてご覧になるお為には、僕自身のNagasakiのアプローチをひとりで説明すると「原爆への恐怖が恐りにその痛苦が逆にエネルギー転換する過程を対象の中で試され、変わっていく僕自身を通して冷静にみつめるとどうもいまいか。つまり僕自身を証明することによって時代を告発することです。Nagasakiは僕にとって“上り”の新しいスタートの場所として、シブラス村から毎年振り出しに戻します。東松照明より

[注2] 島原の乱

島原では16世紀中頃に、口津を中心としたキリシタの伝道が開始されたが、領主松倉代はキリシタを弾圧し、火燵たちある雲仙岳の口で硫黄の採りが鼻孔をさす地獄谷の池に裸でたたきつけられた。

割りとその傷口に熱湯をこぼし込んで山だり煮える池のそばに身体を沈めこませた。また、毎年凶作が続く農民はどの日の食物にも困窮し到底堪えられぬ程の多額の租税を強いることを討るに及んで生命をつなぐより他はなくなつた。餓死者も出る程だった。1636年 ついに島原南目地区は全村をあげて決起し、これに応じて天草でも蜂起し合流した3万人(女・子供・老人が半数)は原城に籠城した。討て幕府軍は12万5千人の兵を以て包囲し、兵糧攻めの後、皆殺しにし、老人・女・子供も全員処刑され、壙に投げ込まれ死んで埋まるほどであった。かくして島原南目は無人地帯となった。島原藩の財政の7割は南目各村にゆつていたので移住を行なうことが緊急のこととされ、幕府は諸藩に強制移住を命じた。瀬戸内の小豆島ではくじ引きで移住を決定し、種子島では4戸13人を移住させた記録が残っている。耕地の少ない島々の住民が島原移住に選ばれたのである。

- 1613 家康 禁教令発布
- 1624 島原雲仙岳 大虐殺
- 1627 島原・天草大弾圧
29 キリシタンを雲仙岳の熱湯に投ずる
- 1634 木次 鎖国令発布 天草大凶作
- 1635 木三 次
- 1636 木四 次
- 島原の乱・天草蜂起記
- 1638 原城陥落

↑ 天草大虐殺
↓

〔注3〕 からゆきさん

天草島内はいたるところ山また山の連続であり、しかもそれらにはこいせきという高峰はないが、いずれも急斜面であるために大きな川も作らなくしたが、平地が極めて少ないため面積の広大ゆえには耕地が乏しい。こうした地形的悪条件は人口過剰をきたし、近世以来さまざま社会的・経済的の問題を引き起こして来たこと、幕府直轄領とほつてから為替地に増え、人々を呼びよせ多くの流人があ

こまらできたことや 京内改め、制度によって離島
伝出が比較的困難であつたこと

また同引きなどによる人為的制限があまりに行なわれ
たこと これらの人口過剰によってかきし出
された 深刻な困窮と 社会不安とは好むと好まざ
るとにかかわらず結局他国への出稼ぎという手段に
よつて緩和されなければならなかつた。

こうして江戸時代の申ごろから他国への出稼ぎが
現われ出したのである。そしてこれらの大部分は
当時日本をただ一つ外国貿易港として都会的な条件
を備えていた長崎へ 長崎へと集中し いわゆる長崎
奉公は年を追つて盛んとなつていった。

長崎が 南港場となつてからは ますます日際
都市になり海外との 往来も 著発になつてき
た。こうして海外との往来が盛んになつてくると
すでに慶応の頃から長崎に奉公中の天草の女たち
の中には 海外へ渡航するものが現われしてきた。そ
ゆゑの如きはオランダ船や イギリス船 ロシア
船などによつて誘拐され 海外へ連れ去られた。
これら海外流浪の日本の女たちの一例としてコー

ランポー(マレー半島)での 塩倉おしと 津さん
の言ひがあげられる

このおとよ津さんはシンガポール地方の草分け
で 土人の間には警察官以上の勢カをもちこの
地方の事情にも非常に明るく邦人の間では「お
とよ津さん」とよばれた名物津さんであつた。

彼女は長崎に居留していたイギリス人の子守
りにやとわけていたが主人一家に伴われてシン
ガポールに渡り ノゲランで土候王族の内縁の
妻になつたのだという。おとよ津さんが日本を
離れたのは 東京がまだ江戸と呼ばれていたこ
ろであつたという。これはしかし幸運に生き
残つた女の実例にすぎない。

病状に死さされて葬行が 不可能になつても
仁丹くらいしか与えられなかつた話、若し口に
耐えかねて逃げだしたため雇主の中日人に裸に
され町辻にさらたあげく陰部に斬をさし込まれ
て殺された女。また蘭領スマトラのメーガン村
では 122年ごろ おかよ津さんという女が土人
相手に女郎屋を用いていたが その女は

片目とかせむし 腫まけり ちんぽ 一寸法師と言った不
見者であり またそのうち幾人かは 60才近くの老導
近くの者であつたことなども記録に残っているのである。一
このようにして 生涯ついにあまたかゝる救いの手をこし
のへる ことばかり 要日の迎二に名を とどめぬ
年塔婆の山を築いた者たちは 聖像を絶する程 救
しれなかった。島原に 昔からうたはれている歌

姉ちゃんね どけ行ったろうかい
姉ちゃんね どけ行ったろうかい
青煙突のバツマンファン
唐は何処にぬけ
唐は何処にぬけ
海は果てばま 汐ウカ付
早よ寝ろ泣かんで 和ロソバイ
和ロソ 和ロソ 和ロソバイ

[注4] 五島カクレキリシヤン
下五島の久賀島は鎖口禁教令が出るまでは
多くの信者を出した島であるが 惨憺たる追害の
嵐にほとんど根絶されてしまった。
市川本の部落のごときは ぬたに住民が絶え 三たか
松林と化したと言われる。
その後大村藩では 明暦3年(1657)の「郡くすれ」など
相次ぐ逮捕に おつて あまたの信者の血が流され 信者が
捨てられ 最後まで 潜伏し続けたのは 外海地方のうち

出津・黒山を中心とした地域とほかに 数ヶ所だけ
にわたつた。この地方は大村領と佐賀領とが入りこみ
いたが 大村領はカクレキリシヤンが 栄えたところ
だけに その 弾圧もきつく さらに潜伏するキリシヤン
は 弊の絵踏・宗門改を はじめ 厳しい禁制の中
物心両面の苦難に耐えた。大村藩が 過剰人口
を抑制する為に行つた 強制回引には 常に心を
苦しめていた。キリシヤンたちは 回引きを 重大な
殺人罪と心得ていた

五島五島へと 皆行きたがる
五島 やすいさ 土地まじ
五島 極楽 行くかみ地獄
二度と 行くまい 五島の島

しかし おい魚場のある 沖々で 豊か村農地を
持つ村々には すでに五島の領民が 占居している。
初住民が居付いたのは 山間僻地の やせ土地
舟つき 場つき 場も無い 孤島が多かつた。この
様な 立地条件の 悪さは おおから 社会的
経済的 困窮となつて 土地の人々(地元の民々)
の 軽侮を受けたことになつた。
初住民たちは 「居付き」という 蔑称で 扱
れ 土地の利には 恵まれず 人々からは 蔑視さ
れる。 「五島は 極楽 行くかみ地獄」
彼らの 悲痛な 気持ちを 吐露したのである。

〔注5〕 平戸 生月

生月では信仰の自由が認められてしばらくたつた
M16年頃島民の9割をいめるといわれ旧キリシタン
がカトリックに公認と復活することを恐れた倭寇
神主たちはもともとキリシタンで、有力者たちを
動かして、カカ所采にわたるとり決めを行って村の
とした。

- 1 キリシタンには其同平戸を扱わせない
- 2 親族の間でも出入をさせない
- 3 嫁のやりとり 養子縁組はできずない
- 4 船の集合を許さずない
- 5 渡海船の船頭になることか出来ずない
- 6 同船して藻をとらせない
- 7 池水もやらすない。旧姓を上げける
- 8 紐屋をすることか出来ずない
- 9 日傭かせぎに使ってやらすない
- 10 足根首を共同で出来ずない
- 11 造り酒のとうじに使ってやらすない
- 12 出かせぎ奉公に世話したり使ってはならぬ
- 13 浦人の肥料をくち取ってやらすない

4 原野に放牧をさせない

いずれにしても、よき者には自達の集団と見做され
し、対抗意識を持っていた。しかしキリシタンが多数を
この島では五島のキリシタンの半数をいふとは違つて
多々といふ異教徒の圧迫をはね返す力を持っていた。

しかし、獅子根獅子は平戸・生月西島の他の
と比べても外部との通婚が少くない。同族結婚
によるかたわが生まれこゝる例もある。

その暗い土間にたたずむことしか与えられず
若い主婦はそとへいりて歌う「獅子の泣き歌」

獅子の泣き歌はヨウ

仙の前でヨウ

一つ歌えば供養にたすヨウ

獅子の小島はヨウ

千尋立つかヨウ

年代	日本史	キリスト教	炭鉱・三菱・朝鮮人	市史備考
1650		55 大村キリシタン56人島原で処刑		
1670		57 郡崩れ (大村のキリシタン600余人捕らわれる) 71 大村藩、百姓の田畑売買を許可 (人間の入れ換えを進める)	63	長崎大火 (町造り始まる)
1680		キリシタン禁制の高札を 全国に立てる	89	唐人屋敷完成 市内に散在していた中国人を 1ヶ所に集める (出入りローカ所)
1700	享保の改革 農民一揆しきりに起こる		07 島原の検地 島原百姓一揆 諫早百姓一揆	
1780		90 浦上一番崩れ	82 大村藩松島炭鉱 開発	「五島へ五島へと皆行きたがる。 五島やさしや、土地までも」 外海地方の唄
1790		97 西彼杵郡外海 黒崎、三重の両村から108人が 福江に渡り以後続々と約3,000人が五島へ渡った 隠れキリシタンの移住		「五島極楽来てみて地獄、 二度と行くまい五島が島」
1800	天保の大飢饉	42 浦上二番崩れ	北松炭田開発	外国船つぎつぎと長崎へ入港
1850	ペリー浦賀来航	56 浦上三番崩れ 絵踏み廃止	57 砲の浦に長崎 製鉄所建設	
1860	王政復古 明治維新	65 浦上四番崩れ		坑夫を徹底的にしぼりあげ 巨額の富を作った
1870	徴兵令発布 富国強兵 (最後のキリシタン大弾圧)	68 浦上キリシタン配流 五島久賀島・牢屋の窄 浦上キリシタン3,000人を捕らえ 21藩に流刑	高島炭坑 (グラバ―経営) 高島で大暴動 (2,000人)	金でかためた グラバさんの 納屋も一つ間違やみな殺し 「高島節」
1870	72	73 浦上キリシタン1,983人釈放	天皇長崎造船所 巡視 高島暴動(400人)	
1870	77 屯田制度 西南の役		78 高島暴動(2000人) 100余人捕まる	

年代	日本史	唐行 (キリシタン)	炭坑・三菱	市史備考
74	軍国主義 海外進出 自由民権運動起こる	78 政府が九州産炭を口之津港より直接海外へ輸出することから売春婦として石炭船で海外へ売られていくようになる (天草 島原) (唐行さん)	81 高島炭坑 三菱払下げ	
84	鹿鳴館時代 秩父事件	83 東南アジア	三池炭坑で三池集治監の使用し始める	
85	天津条約調印	清国各地・安南・シンガポールに売春婦増加 (上海で800人) 婦女売買人暗躍 問題となる	長崎造船所 三菱払下げ	
89	大日本帝国憲法 発布			
94	日清戦争	90 長崎から香港に入港した伏木丸の船内機関室より、密航中の売春婦、婦女売買者8人の窒息死体が発見される。 92 長崎県が婦女売買など目的不良のため海外渡航を認めなかった者 男18・女20人	94 連合艦隊 佐世保より出撃 歩兵第46連隊が大村に移駐	
1902	日英同盟	97 端島炭坑 坑夫800人 施設の改善を要求してスト 高島炭坑暴動 (700人)	98 長崎を要塞地区に指定	
04	日露戦争 社会主義思想の弾圧 労働争議・鉱山を中心に急増 (明治期最高)	06 大正天皇(皇太子)長崎造船所に立ち寄る 高島炭坑ガス爆発 (250人余死亡)	*「君死にたもう事なかれ」 発表	
10	大逆事件 韓国併合	08 三菱従業員1万人を突破 (払下げ当時の11倍) 同年不況のため3300 余名解雇	足尾、夕張、幌内 生野、別子 暴動 谷中村強制破壊	*時代閉塞の状況
14	第一次世界大戦	朝鮮占領 朝鮮の土地が日本人地主の所有になり、土地を奪われ国外へと追われる運命を負わされた	13 島原鉄道開通	

1917

日本史

朝鮮人・原爆

炭坑：三菱

市史備考

1920 戦後恐慌

八幡製鉄2万3千人のストライキ
溶鉱炉の火をおとす
大正デモクラシー

朝鮮人の無制限導入始まる

長崎三菱造船所ストライキ
(1万2千人)
松島炭坑火災(死者50人)
三菱造船会社開業

今上天皇(皇太子)長崎造船所に立ち寄る

戦艦「土佐」に第一銃を打つ

香焼炭坑暴動

三菱・戦艦「あおば」竣工

23 関東大震災

朝鮮人暴動の流言 数千人が殺される

三菱・戦艦「はぐろ」
三重巡洋艦「古鷹」竣工

25

29 世界恐慌

1930 31 満州事変

アジア大陸侵略へ

三菱長崎造船所
三東洋一

36 15事件
26事件
38 国家総動員法公布

炭坑・連行山さる
坑制連行土る 建業に

三菱「武蔵」起工
三菱務造あいつぐ

1939 第二次世界大戦

1940 ハワイ真珠湾空襲

東条内閣

43 第一回学徒出陣

女子挺身隊動員

45 東京大空襲

強制連行 福岡県 6780名
長岡県 2920名

この間の強制連行以上の
総及の数は100万人

44 高島行さる 43人
44 高島行さる 105人

三 菱 重 工 業 軍 需 会 社
に 指 回 天 製 作

8.6 広島原爆投下
8.9 長崎原爆投下

日本無条件降伏

1946 日本国憲法発布

長崎空襲
長崎3回空襲

8.9 原爆投下

*9.3 <ノーマアヒロシマ>
打電

白血病患者 広島、長崎に
出始める

46

74夏 8.6-9 広島・長崎 集団撮影行動アデル

70年以降人間が何事かを起そうとする基盤が地帯的に崩壊し、個は分断され、声はかきりぎりしその存在は奇妙な明るさと行きつきまきの無い"自由"の中"空中分解"の様を呈している。大学写真サークル内においても、自分の力で"現実"に対し何の意志も決定も思考を持ちえず"自分"という小さな中から閉じこもり、まるで"幼児"の如く自分を甘やかしている人間があふれる。そんな中で我々はまわりの世界に対し感じる事何だろうと疑問を持ち、そしてこれらの物事にがっかりフカンズ"いく行為"からしか何事もうみだせぬとほろけず。'74年夏、日本中に、そしてサークルに充滿するこの状態に対し我々は何をやればよいのか？

我々は70年以降の時代状況に対し人間の生を奪還すべく8.6-広島、8.9長崎に対し集団で生の基盤を構築した。

広島...戦後30年原爆焦土に巨大な近代中間都市として復興した広島は、その重く深い事実を跡形も無く消し去り平和と繁栄をむさぼる巨大な怪物と仮している。街にあふれる被爆当時の写真は逆に復興という美名に利用され、又、被爆者達が焼野原に自分達の手で"生"をきた

街基町はその美感をそとうというだけで"鉄キ高層アパートのコンクリートの壁の中におにめられ、彼ら生活の場をおわねる。しかし一度地面を掘れば以島から当時の死骸を焼きつめた土層が出現しまた数々のしかばねがその土にねむる。都市広島は自らのケロイドを背に負い平和の虚色をよそおう。我々は広島での行為を、こゝで終えることなく、等々に被爆の事実を背におろすの被爆地長崎にそのま先をむけた。長崎はその三年の歴史の中に被爆の事実すらおろすに深く日本の産物と流れては。隠れキリタンカラアキマン炭鉱 軍需産業-三菱 今なお生を束縛されおにめられる朝鮮人、これらのことが複雑に交差し、いさへ長崎の街に棲息する。昨年我々は長崎のあらたなる視点をめだすべく島比島から長崎をみよとした。海外侵略の先兵とく負い土地ゆえにその身中だけ遠く東部 赤い身をおもむく鹿行さんの生き様、彼らに刻まれた暗い過去は我々の強ひたカラとした生とつながる。否定され、悲しみがけ、今なお日常の中にマリア様魂という言葉を大切に持つ得るが、これキリタン。このような出合いは、繁栄と平和の中の物質文明が、いかに何なのか我々の生をどうするのかを問いかける。長崎の若鷲に向け我々は更に深く潜行しなければならぬ。

74年夏我々は自らの生の行為を確実につかみ要に大きく越え、8.6-9広島長崎集団撮影行動を提起する。全国各地の連盟、サークルの主体的な参加への夏、何事かやろうとする人間の結果を求め！

